

能代北高跡地のワークショップニューズレター

これから、ここから。

From here and now

The former site of Noshirokita Senior High School
and the future of Noshiro City

Vol.4

Newsletter

「実証実験プロジェクト、スタート！
北高跡地で宿泊してみる」#北高跡地活用
アーカイブはこちらから
NPO法人アーツセンターあきた

能代北高跡地活用の可能性を探る実証実験プロジェクト

2014年3月に秋田県から能代市に譲与された能代北高跡地。更地となって8年、これまで複数の提案や意見があり、周辺の商店街を含めたつながりを考慮した検討が必要とされてきました。2020年度に秋田公立美術大学が実施した基礎調査では、実験的な取り組みを続けて中心市街地活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトを提案。2021年度は北高跡地活用の可能性を検討するためのワークショップを行い、2022年度は実証実験プロジェクトへと移行しました。ニューズレターVol.4では、2022年9月に開催した第1回実証実験プロジェクトを報告します。

(企画・運営：秋田公立美術大学)

北高跡地活用に関する能代市の
ウェブサイトはこちら

ワークショップ&実証実験スケジュール

2022年度は前年度を振り返るワークショップに加え、実証実験プロジェクトを2回行いました。プロジェクトの内容はニューズレターやNPO法人アーツセンターあきたのウェブサイト、能代市役所のウェブサイトからご覧いただけます。

第3回 ワークショップ:

日時 | 2022年8月27日(土)13:00 ~ 16:00

場所 | 能代市役所

第1回 実証実験プロジェクト:

日時 | 2022年9月24日(土)14:00 ~ 25日(日)11:00

場所 | 能代北高跡地

第2回 実証実験プロジェクト:

日時 | 2022年11月20日(日)11:00 ~ 15:00

場所 | 能代北高跡地

第1回 実証実験プロジェクト

「北高跡地に宿泊してみる」

日時 | 2022年9月24日(土)14:00 ~ 25日(日)11:00

場所 | 能代北高跡地(能代市追分町1-36)

プログラム

- 14:00 スタート
- 15:00 能代歴史まち歩き
- 16:00 インタビュー
- 16:30 著作ワークショップ
- 17:00 マタギの焚き火講座

プロジェクト

技術的検討

ワークショップ

創造的な意見交換を行う「ワークショップ」と、ワークショップで出たアイデアを専門的な視点から検証する「技術的検討」を繰り返し、実施可能な「プロジェクト」を考えていきます。

2021年度以降の検討イメージ▶



実証実験プロジェクト、スタート！

2021年度のワークショップで提案されたアイデアを整理し、全てを網羅する企画となるようにまとめたのが「北高跡地に宿泊する」<北高跡地でスタートアップ><北高跡地で展示する><北高跡地で作る><北高跡地で展望する>の5つのプロジェクトでした。8月のワークショップでは「宿泊する」<展望する>の2つをブラッシュアップし、より具体化するために意見交換をおこないました。宿泊するだけではなく、何か体験はできないだろうか？天体観測はどうだろうか？能代には映画館がないから屋外で上映することはできないだろうか？災害発生時の対応はどのようなだろうか？などさまざまな意見をもとにして、いよいよ実証実験がスタートします。



2022.8.27 第3回ワークショップ

【実証実験プロジェクト1】

1泊2日の宿泊体験で、
北高跡地の新たな可能性を探る

思考継続型プロジェクトは、施設ありきの計画ではなく、次の世代にどう引き継いでいけるか時間をかけて検討していく考えです。重要なものを見落とさないよう、土地のさまざまな使い方を試す実証実験を重ね、模索することで計画を進めていきます。

実証実験プロジェクトの第1回目は、「北高跡地に宿泊してみる」。キャンプをメインとして、能代の歴史にふれるまちあるきや職人の指導による木工体験などを組み込んだ複合型のプロジェクトです。屋根のない北高跡地の広大な敷地にテントを張り、食事をつくり、参加者それぞれが自由に時間を過ごします。いつもの見慣れた空き地に長く滞在するいつもとは異なる体験が、この場所の新しい見方や公的な場としての可能性を探るきっかけになるのではと考えました。

2022年9月24日(土)。雨が止んで秋の心地よい風が吹いたこの日、11:00頃からスタッフが集まり、準備開始。北高跡地の草むら歩きを始めて地面を確かめながら、持ってきたテントを悪戦苦闘しながら張ったり、レジャーシートを敷いたり。火を起こし始めた頃、少しずつ参加者が集まってきました。



【能代歴史まち歩き】

樽子山の歴史、能代の歴史

テントの数が7個、8個と増えていき、思い思いに過ごし始めた「北高跡地に宿泊してみる」の参加者たち。午後からは、能代の歴史に詳しい方をお招きして、歴史にふれるまちあるきを開催しました。講師は佐藤修正さん(能代まち歩き案内人)と花下哲さん(元地域おこし協力隊)。お話は、この土地の名前である「樽子山」の意味や飛砂のこと、ここに建っていた能代北高が憧れの女学校であったこと、制服が人気だったことなど土地にまつわるエピソードから始まりました。海岸から続く砂丘であった樽子山の歴史と移ろいは、昔から強風とともに、飛砂とともに生きる宿命にある能代の歴史そのものでもあります。



高低差のある道を歩く

小高い丘にある北高跡地から、JR能代駅のほうへ坂を下りていきます。歩きながら、昔懐かしいデパートのこと、食堂や本屋さん、喫茶店などの話を聞きます。歩く足底に起伏が感じられるのは、砂山の上に市街があるからとのこと。能代の街の特徴である土地の高低差を体で感じながら街並みを歩きます。途中、能代バスミュージアムに立ち寄り、坂の名前を確認したり。立ち止まったのは「明治天皇御前水の井戸跡」。明治天皇が喉を潤したというこの井戸は深さ40尺(12m)ほどもあり、能代一の水質とうたわれたことなどを学びました。

能代という地名は古くは渟代(ぬしろ)だった歴史のこと、八幡神社の逆さ松、住吉龍神社。木都能代を象徴する建物で、木材商人たちの迎賓館的存在だった料亭「金勇」を彩る天然秋田杉の話……。さまざまなエピソードをうかがいながらまた北高跡地方向へ坂を登ると、賀藤景林が植えたと思われる松がありました。1822(文政5)年から1833(天保4)年までの12年間に植え続けた松のなかでも、この松は初めの頃のものとしてできているとのこと。その木のそばにしばらくたずんで思いをはせました。

裏面へつづく →



起伏のある道を歩き、街の成り立ちに触れて

能代の歴史まちあるきを終えて北高跡地に戻ってからは、参加者同士、まちあるきの感想を話し合いました。「毎日歩いている場所なのに、新しい発見があった」「成り立ちの理由やさまざまなエピソードが分かると面白い」「能代の街を歩いたのは初めて。知らない土地なので、説明があったおかげでいろいろ知ることができた」「普段は車で行き来しているので、車では通らない場所を歩いて通ることは大事だなと実感した」といった感想のほか、北高跡地で過ごしてみた感想や、利活用に関するアイデアも出てきました。

- ・水場やトイレは必要。
- ・一般の人が自由に使えたい。
- ・キャンプ場にするにも小屋はあったほうがいい。
- ・子どもが何をしてもいい場所を街なかに。
- ・樽子山の歴史を知り、立ち戻って考えてみるのも大切。



木工体験や火起こしをして 北高跡地で1日を過ごす

「北高跡地で宿泊してみる」では、スケジュールのなかにまちあるきのほか木工体験と火起こしを組み入れました。地元・能代の湊哲一さん（ミナトファニチャー）による箸作り体験と、阿仁根子のマタギであり写真家の船橋陽馬さんによる火起こしレクチャーです。木に触れて道具で削り、指先に馴染む箸をつくる時間。夕闇のなか、杉の樹皮を使ってゆっくりと火を起こし、クロモジを煮出して味わう時間。北高跡地に滞在した1日には、いつもとは違う街なかの景色がありました。



【小杉栄次郎（秋田公立美術大学教授）】

北高跡地に身をおき、 五感を総動員して捉え直すことは 重要なプロセス

北高跡地の利活用を考える「思考継続型プロジェクト」は、2020年の北高跡地活用基礎調査業務を進める際のさまざまな議論のなかから生まれたものです。その後、2021年度には市民参加ワークショップという形で展開され、2022年度からはいよいよ、短期的プロジェクトを行い検証する実証実験の段階へと移行しました。ご参加いただいた方々には、本当に感謝申し上げます。

昨年度のワークショップで市民から挙げた全てのご意見を網羅した形で、私たちは実現可能な5つの実証実験プロジェクトを提案しました。その第1弾が「北高跡地に宿泊してみる」となった理由は、準備期間や予算といった現実的な制約からだけではありません。検討すべき対象になるべく近づき考えることは、どんな研究、開発行為においてもとても重要だからです。もう十分知っている（と思いつている）対象だからこそ、あらためて敷地に身をおき、五感を総動員して捉え直すことこそが、この土地や街の未来の姿をつくっていくためのスタートとして最適だと考えたからです。今後も、実証実験を続けていく予定です。ぜひご参加いただき、一緒に未来の北高跡地の姿を描きましょう。

【井上宗則（秋田公立美術大学准教授）】

北高跡地のポテンシャルを 掘り起こし、利活用の在り方を 更新し続けていく

昨年度から実践している思考継続型プロジェクトの特徴は、実際に敷地を“使いながら考える”ことにあります。具体的には、〈ワークショップ〉→〈技術的検討〉→〈短期的プロジェクト〉を繰り返す行うことで、北高跡地のポテンシャルを掘り起こし、利活用の在り方を更新し続けていくことを目指しています。今回行った短期的プロジェクト「北高跡地に宿泊してみる」は、これまで行ってきたワークショップの成果から導いたひとつのテーマですが、実際に北高跡地と昼夜付き合うことで、この場所が有する魅力を皆で深掘りしたいという狙いもありました。参加者との意見交換では、土地利用に関する提案だけでなく、かつての中心市街地の様子や能代の歴史にも話題が広がっていききました。北高跡地をきっかけにして、能代の街を考えるということも、思考継続型プロジェクトの目的のひとつでもあります。

一方、今回初めて短期的プロジェクトを実施して痛感したことは、敷地を使い倒すためには、トイレや雨風を凌げる場所等、ある程度の整備が必要だということでした。今後は、こうした短期的プロジェクトを活発化するための方策についても、早急に検討していきます。



箸作りワークショップ
湊哲一さんによるスギ、ケヤキ、桜などの材を使った箸作り体験。

香りや手触り、削る感触の違いが
木工体験の魅力でもあります。

マタギの焚き火講座
船橋陽馬さんから教わる火起こし。
ナガサを使って薪を割り、ゆっくりと火を起こしていきます。

子どもたちも少しずつ薪をくべていきます。

能代の夜
街なかで過ごす夜。水場やトイレ、
屋根のない場所で、工夫しながら滞在。



実証実験プロジェクトは 2023年度も続きます！

北高跡地における利活用の可能性を探るプロジェクトは2023年度も続きます。ワークショップのこと、実証実験プロジェクトのこと、このニューズレターのことなどはNPO法人アーツセンターあきたまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：
NPO法人アーツセンターあきた ☎ 018-888-8137

プロジェクトメンバー

小杉栄次郎（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
井上宗則（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
船山哲郎（秋田公立美術大学景観デザイン専攻）
田村剛（NPO法人アーツセンターあきた）
徳川美穂（NPO法人アーツセンターあきた）

能代北高跡地のワークショップ

ニューズレター「これから、ここから。」 Vol.4
2023年3月発行
発行 公立大学法人 秋田公立美術大学
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3
TEL.018-888-8100

※能代北高跡地活用可能性検討業務の一部として作成しています。
デザイン：越後谷洋徳 写真：伊藤靖史
編集：高橋ともみ 制作：NPO法人アーツセンターあきた